

COSMOS ロールモデル・アンケート

～研究と子育ての両立をどのようにしてきましたか？～

Vol.3 独立行政法人 物質・材料研究機構 吉武道子さん

1985年3月 お茶の水女子大学 理学部化学科卒

1987年3月 東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻修士課程修了

現在の所属機関・部署名:独立行政法人 物質・材料研究機構
半導体材料センター

お子様の現在の年齢:子供はいない

1. 個人的なプロフィール

① 小さいときは、どんなお子さんでしたか？

木のぼりなど外遊び好き(おてんば)
社会(地理・政治・法律)好き、理科好き、
中学ぐらいから:本好き、手芸好き

② お茶大を目指そうと思い始めたのは、いつごろからですか？ その理由は？

高校3年生の秋。自宅から通える国公立大学(経済的理由)という制限の中で、東大は受かる確率50%で、浪人したくなかった。また、卒業後の仕事探し(結婚・出産等で中断があった場合)に同窓会ネットワークが強いから。

③将来的に研究者になろうと思った理由は？ 大学教員・研究者になったのは結果論ですか？ お茶大内で影響を受けた教員や先輩は？

研究は好きでしたが、研究者になったのは結果論です。東京大学の大学院へ進学して育英会の奨学金をもらい、大学教員（東大で女性が進む道でないと思った）以外で研究職という職業があることを知り、大学院で学費を払ってやっているのと同じようなことをして給料がもらえるなんてなんと素晴らしい職業かと思って、国家公務員上級試験を経て研究者になりました。

お茶大で影響を受けた教員は、子育てしながら働いている女性教員（複数）。子育てと両立できる人たちがいるんだ！と。

2. キャリア形成について

①ロールモデルから、どのようなことが参考になりましたか？
(人物、時代背景、家族の協力など)

ロールモデルはない。

②後輩に経験させたいこと、経験させたくないことを具体的にお書き下さい。

経験させたいこと:

研究者としてやっていけるかどうかを真剣に悩むこと
研究テーマを自分で見つけること、そのために苦しむこと。

経験させたくないこと:

お茶くみの強要。宴会でのおしゃくなど、男性研究者がいる場面で、
研究者として扱われないこと。